

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)別府3丁目計画 新築工事	階数	地上16F
建設地	福岡県福岡市城南区別府3丁目139	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	157 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年11月 予定	評価の実施日	2021年7月1日
敷地面積	1,088 m ²	作成者	神川あかね
建築面積	515 m ²	確認日	2021年7月16日
延床面積	6,255 m ²	確認者	馬場奈美



ま
して
く
さ
い

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.6 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 環境効率 C 環境負荷 L	30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)	Q のスコア = 2.8		
Q 環境品質	Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
	Q1のスコア= 3.4	Q2のスコア= 2.9	Q3のスコア= 2.0
	音環境 3.5 温熱環境 3.2 光・視環境 3.1 空気質環境 3.8	機能性 2.4 耐用性 3.0 対応性 3.4	生物環境 2.0 まちなみ 2.0 地域性 2.0
LR 環境負荷低減性	LR のスコア = 3.8		
	LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
	LR1のスコア= 4.7	LR2のスコア= 3.2	LR3のスコア= 3.4
	建物外皮の 5.0 自然エネ 3.0 設備システ 5.0 効率的 4.5	水資源 3.4 非再生材料の 2.8 汚染物質 4.3	地球温暖化 4.1 地域環境 3.1 周辺環境 3.1

3 設計上の配慮事項	その他	
総合 建物をタワー型とし、屋内廊下・屋内階段・非常用EVを内部に配して、眺望・外光を十分享受できるワイドバルコニーとしています。高効率機器の導入と高断熱・断熱開口により各住戸ZEH-M Oriented達成、住棟全体でもZEH-M Orientedを達成し省エネルギーな建物を計画しています。	0	
Q1 室内環境 内装材及び建材・接着剤は全てF☆☆☆☆とし、化学汚染物質からの影響に配慮しています。また、高断熱・断熱開口とし外皮性能は省エネ基準以上のレベルを達成し、外気からの熱の影響を受けにくい快適な室内環境として	Q2 サービス性能 居室の天井高は2.5m以上を確保することにより、ゆとりある居住空間を計画しています。また、太陽光発電設備を設置し共用部の電源をまかなうとともに、災害や事故などに対応できるよう非常用電源を備えています。	Q3 室外環境(敷地内) 周辺の環境に溶け込みやすい建物デザインとしています。また、南側の幹線道路沿いには低木・高木を豊富に植栽し、建物の圧迫感を低減するとともに街並みの景観に配慮しています。
LR1 エネルギー 高効率ガス給湯器の採用、エネファームの設置(一部住戸)、高効率空調機の採用等により建物の熱負荷の低減を行っています。高断熱による外皮性能と合わせ、効率の良い機器の採用によりZEH-M Oriented基準を達成しています。	LR2 資源・マテリアル 節水型トイレの採用、食洗器の設置により水資源保護に配慮しています。断熱材はノンフロンでオゾン層破壊係数が0の材料を採用しています。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO₂概算値が73%となり、地球温暖化対策へ配慮しています。南側には交通量の多い幹線道路があるため、東側の側面に敷地駐車場入口を配して渋滞緩和など周辺道路へ配慮しています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される